

## 公立はこだて未来大学 総合型選抜・学校推薦型選抜Q & A

(2020. 2. 28公表)

現行のAO（アドミッション・オフィス）入試・特別選抜（推薦）入試は、令和3年度（2021年度）入試から「総合型選抜」・「学校推薦型選抜」となります。

本学の求める能力をより適切に評価するため、国の入試制度改革および現行の入試制度を基に選抜方法の見直しを行いました。

### 【各選抜の特徴について】

Q01. 総合型選抜と学校推薦型選抜の違いは何ですか。

総合型選抜は受験生の自己推薦にもとづく選抜方法（現行のAO入試に相当）、学校推薦型選抜は学校長の推薦にもとづく選抜方法（現行の特別選抜（推薦）入試に相当）です。いずれも、合格したら必ず入学することを確約できることが出願の要件です。

Q02. 総合型選抜とはどのような選抜方法ですか。

総合型選抜では、これまでのAO入試と同様、学力試験だけでは測ることができない多様な能力や可能性なども評価します。

出願においては、理数系の分野に強い興味を持ち、自己推薦の根拠となる具体的な活動実績を有すること、本学の教育内容を十分に理解したうえで、本学において学ぶことを強く希望していること、さらに高等学校などを卒業または卒業見込みであることが必要です。年齢の上限はありません。

Q03. 総合型選抜の出願要件「理数系の分野に強い興味を持ち、自己推薦の根拠となる具体的な活動実績」の例を教えてください。

本学での学びにつながるような活動実績を求めています。例えば、理数系や情報系、デザインなどに関して極めて高い能力や優れた実績を有していること、情報技術や語学などの資格を有していること、競技会やコンテストなどで優れた成績や高い評価を得たこと、地域や社会に貢献する活動をしていること、社会人としての実務経験があることなどが考えられます。これらに関連する授業（探求学習・課題研究）や自主的な課外活動、その他の特筆すべき実績や能力なども含まれます。

ただし、上記の例にはあてはまらない場合でも、多様な能力や可能性を示す具体的な活動実績があればぜひ出願してください。

Q04. 総合型選抜の出願要件の中に『「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」を履修している者、あるいはこれと同等の学力を有する者』とありますが、高校ですべてを履修していなくても受験できますか。

はい、受験できます。「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」のすべてを履修していなくても、「同等の学力」を有していれば受験できます。

受験生の数学能力を確認するために、適性検査の中で「基礎的な数学能力を問う問題」「データに関する基礎的な問題」を出題します。

Q05. 学校推薦型選抜には、どのような区分がありますか。

学校推薦型選抜は、これまでの特別選抜（推薦）入試と同様、学校長の推薦が必要な入試区分です。そのため、出願できるのは高等学校等の卒業見込者に限ります。学校推薦型選抜は、指定校枠、地域枠（北海道・青森県）、全国枠（北海道・青森県以外）の3区分があります。

Q06. 学校推薦型選抜の出願にあたり、評定平均値の条件などはありますか。

「調査書の数学、理科または全体の評定平均値のいずれかが3.5以上の者が望ましい。」と基準を設けています。しかしながら、志願者を多面的・総合的に評価するため、評定平均値が3.5未満であることを理由に出願を受け付けないといったことはありません。

ただし、学校推薦の条件を高校が設定している場合があります。出願にあたっては、所属する高校において学校推薦の条件を確認してください。

Q07. 総合型選抜・学校推薦型選抜それぞれの募集人員を教えてください。

総合型選抜は20人、学校推薦型選抜は指定校枠10人、地域枠40人、全国枠10人となっています。過去のAO・推薦入試の入試結果については、下記URLにてご参照ください。

<https://www.fun.ac.jp/result-exam>

Q08. 入試時期はいつですか。また、第一次選考はありますか。

総合型選抜は、これまでのAO入試と同様に10月下旬～11月上旬に実施予定です。なお、志願者数が募集人員を大幅に超える場合には、10月中に第一次選考として出願書類審査による選考を行うことがあります。第一次選考の有無については受験者本人に事前にお知らせします。

また、学校推薦型選抜は、これまでの特別選抜（推薦）入試と同様、11月下旬～12月上旬に実施予定です。こちらは志願者多数の場合でも出願書類審査による第一次選考はありません。

Q09. これまでのAO入試で志願者多数による第一次選考が行われたことはありますか。

これまでのところ、実施したことはありません。ただし、志願者数が募集人員を大幅に超える場合には、今後実施する場合があります。

Q10. 総合型選抜を不合格となった場合でも、学校推薦型選抜や一般選抜に出願できますか。

出願できます。総合型選抜の合格発表日後に、学校推薦型選抜の出願最終日を設定しています。なお、学校推薦型選抜を不合格となった場合でも、一般選抜に出願できます。

Q11. 他大学との併願はできますか。

Q01 のとおり、総合型選抜・学校推薦型選抜ともに「合格した場合には必ず入学することを確約できる」ことが出願要件となっています。そのため、本学に合格した場合は、他大学を併願していても、本学に入学することが求められます。

#### 【選抜方法について】

Q12. 総合型選抜・学校推薦型選抜の方法を教えてください。

総合型選抜では、出願書類、「適性検査」および「面接（プレゼンテーション・対話面接）」により総合的に評価します。

学校推薦型選抜では、指定校枠については出願書類と「面接（対話面接）」、地域枠・全国枠については出願書類、「適性検査」および「面接（対話面接）」により総合的に評価します。

Q13. 大学入学共通テストを受ける必要はありますか。

本学の総合型選抜・学校推薦型選抜では、大学入学共通テストの受験は課しません。

Q14. 出願書類はどのように活用されますか。

調査書をはじめとする出願書類は、おもに対話面接のなかで受験生をよく知るための参考資料として活用します。志望理由書や推薦書等の様式については、決まり次第お知らせします。

なお、調査書は、入学後の教育および進学・就職支援のための参考資料としても活用します。

Q15. 「対話面接」とはどのようなものですか。通常の面接とどのような違いがありますか。

対話面接とは、一問一答形式ではなく、面接員との対話を通して受験生の特性をより深く知るための面接です。あらかじめ準備した内容をそのまま話すのではなく、その場で示された問いについて、よく考え、わかりやすい言葉で表現し、他者と理解し合おうとする態度や試みを重視します。

対話面接では調査書等の書類も活用しながら、受験生の学力を含め、本学への適性或可能性を評価することとしています。

Q16. 総合型選抜の面接のなかのプレゼンテーションはどのような形式でしょうか。

プレゼンテーションでは、自己推薦の根拠となる具体的な活動実績について、現行のAO入試と同様に5分以内での説明を求めます。事前に提出したプレゼンテーション資料を用いて、パソコンを操作しながら説明してください。必要に応じて、志望理由や将来の目標、取得した資格、アピールしたいこと等を含めてもかまいません。このプレゼンテーションと志望理由書に基づき、対話面接を行います。

なお、令和3年度(2021年度)入試からは、提出できる電子データはプレゼンテーション資料のみとなり、ビデオ資料を用いることはできなくなりますのでご注意ください。ただし、プレゼンテーション資料内に動画を埋め込むことはできます。

Q17. 総合型選抜の「適性検査」とはどのような内容ですか。

総合型選抜の「適性検査」には、総合問題Aと総合問題Bがあります。総合問題Aは「基礎的な数学能力を問う問題」「データに関する基礎的な問題」「情報に関する基礎的な問題」、総合問題Bは「日本語能力を問う問題」「英語能力を問う問題」を出題します。すべて必須問題です。

(総合問題A) 90分, 150点

基礎的な数学能力を問う問題 50点

データに関する基礎的な問題 50点

情報に関する基礎的な問題 50点

(総合問題B) 90分, 150点

日本語能力を問う問題 50点

英語能力を問う問題 100点

Q18. 学校推薦型選抜の「適性検査」とはどのような内容ですか。

学校推薦型選抜の「適性検査」には、総合問題Iと総合問題IIがあります。総合問題Iは「基礎的な数学能力を問う問題」「データに関する基礎的な問題」、総合問題IIは「日本語能力を問う問題」「英語能力を問う問題」を出題します。学校推薦型選抜では「情報に関する基礎的な問題」の出題はありません。すべて必須問題です。

(総合問題Ⅰ) 90分, 150点

基礎的な数学能力を問う問題 100点

データに関する基礎的な問題 50点

(総合問題Ⅱ) 90分, 150点

日本語能力を問う問題 50点

英語能力を問う問題 100点

Q19. 「基礎的な数学能力を問う問題」は、総合型選抜と学校推薦型選抜ではどのような違いがありますか。

出題範囲はいずれも「数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B」です。

総合問題A(総合型選抜)では、基本的な小問を5問程度出題します。総合問題Ⅰ(学校推薦型選抜)では、いくつかの小問で構成された問題を2問程度出題します。

なお、これまでのAO入試・特別選抜(推薦)入試では、いくつかの小問で構成された問題を3問程度出題していました。

Q20. 「日本語能力を問う問題」「英語能力を問う問題」は、総合型選抜と学校推薦型選抜ではどのような違いがありますか。

出題ポリシーに違いはありません。「日本語能力を問う問題」「英語能力を問う問題」は、総合問題B(総合型選抜)と総合問題Ⅱ(学校推薦型選抜)において同一の出題ポリシーに基づき出題します。

なお、英語の出題ポリシーは、令和2年度入試まで用いられる「英語出題ポリシー」(平成26年12月制定)を継承したものとなっています。

Q21. 「データに関する基礎的な問題」ではどのような内容が出題されますか。

データを読み解く力や表現する力、統計の基礎的理解について確認するために、図や表などのデータを元にした問題を出題します。

数学Ⅰ「データの分析」の教科書レベルの知識は身に付けておく必要があると考えます。その他、数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学Bで扱われている確率・統計の基礎的知識も理解しておくようにしてください。

新たにこのような出題を行うのは、情報科学においてデータサイエンスが重要になってきており、データを分析・活用できるような人材のニーズが社会的にも高まっているためです。

出題例や形式については、サンプル問題でご確認ください。

Q22. 「情報に関する基礎的な問題」ではどのような内容が出題されますか。

これまでのAO入試では「情報科学」は選択科目の一つでしたが、総合型選抜では「情報に関する基礎的な問題」が「総合問題A」の一部として必須問題になります。高校等の学科・コースを問わず、数学や情報に関する教科書レベルの内容や、日常生活のなかで出会う情報表現について理解することにより対応できる問題を想定しています。

出題例や形式については、サンプル問題でご確認ください。

Q23. 「日本語能力を問う問題」ではどのような内容が出題されますか。また、どのような勉強が必要ですか。

日本語での「論理的な思考力・理解力」と、「適切に説明する能力」を評価するための問題を出題します。幅広いジャンルから、高校現代文の教科書レベルの文章を出題しますので、日頃から読書の習慣を身に付けるようにしてください。センター試験の現代文の過去問題を勉強しておけば、十分に対応できると考えます。

いくつかの小問で構成された問題を1問出題する予定です。出題例や形式については、サンプル問題でご確認ください。

#### 【その他】

Q24. パソコンをあまり使ったことがないのですが、未来大での勉強についていけるでしょうか。

入学するまでパソコンをあまり扱ったことがなくても大丈夫です。学生たちは、入学時に購入したノートパソコンを毎日使いながら、授業に必要なスキルを身に付けていきます。また、授業によっては担当教員のほかにTA（ティーチング・アシスタント）という授業補助の学生がいて、パソコンの扱いなどもサポートしています。

Q25. 入学までの間に準備しておくべきことはありますか。

高校での勉強に力を入れて、基礎学力をしっかりと身に付けておいてください。大学での勉強をスムーズに始めるために必要です。

なお、本学では数学と英語の入学前導入教育を12月末～2月にかけて実施しています。

Q26. 高校で数学Ⅲを履修しなかったのですが、入学までの間に準備をしておいたほうがよいですか。

情報系の学習においては、数学Ⅲを含めた数学の知識が求められます。入学までの間にしっかり準備をしておいてください。

入学後は、授業内容を十分に理解できるようにさまざまなサポートを行っています。たとえば、数学Ⅱ、数学B、数学Ⅲについて補講を実施しています。また、メタ学習ラボという学習支援センターでは個別指導を行っています（メタ学習ラボについては大学案内パンフレットでご確認ください）。